



不運な事故に遭い、クラスの女子から聞き齧った乙女ゲームの世界に転生。

悪役令息になったのだが、不良にカツアゲされて全裸土下座をした軟弱男子校高生にゲームの憎まれ役が務まるわけがなく、ヒロインを含めて（俺が転生する前に）虐げた人々にこれまた土下座をしてまわった。

まだ本格的に蛮行をふるうまえだったから、なんとか収束したとはいえ、新たな、というか根っこの問題が浮上。

幼いころは家族のように親しかったヒロインに、どうして悪役令息は態度を急変させ、冷たく当たるようになったのか？

クラスの女子が首をひねっていたその謎の答えを、身をもつて思い知らされたのだ。

ゲームでは悪役令息の心理描写はあまりないが、けっこう哀れな生い立ちについての説明がある。

五才のころ父親を亡くし、二年後、母親が再婚して、以降、義父と三人で暮らすも、六年後にこんどは母親が亡き人に。

そこから想像するに「実の父のいないことの寂しさ、再婚した母への複雑な思い、義父と折りあいがよくないことでの鬱憤、父だけでなく母も亡くした悲しさ、血の繋がりのない男との同居でのストレス、それら負の感情を処理しきれず、ヒロインに八つ当たりする形で甘えるのでは？」と考察がされていたのだが。

実際に悪役令息の立場になってみたら「よくもお母様を奪いやがったな！」との恨みつらみは一切なく、義父を見ていると、顔が火照って鼓動が乱れて息が切れて腰が疼いてしまう。

思い当たるこの感覚は、そう「恋」。

叶わぬ禁断の恋をして、日々、やるせなさを噛みしめているのだから、間近でヒロインがイケメンにちやほやされて口説かれているのを見せつけられては、そりゃあ、やさぐれもするだろう。

ちなみに自覚したのは、ヒロインの「二年前から急に意地悪に」との証言からして、そのあたりのよう。

母親の生存中に三角関係の修羅場になっていなかったのがまだ救いとはいえ「血が繋がっていないといつて近親相姦的恋は荷が重すぎる！」と心労はすさまじい。

クラスの女子からゲームの内容を聞かされただけでプレイをしたことがなく、まともに義父の顔も見たことがないから、この恋心が俺のものでないのは確か。

もともとのキャラの思いを引き継いだわけで「もしかしたら時間が経

てば、だんだん俺が主体の人格形成がされていきキャラの性質は消えていくかも」と期待したものの、転生してから半年経った今、絶賛、ナオ禁中で死にそう。

どうしても義父が頭にちらつく、その状態でぬきたくなかったし、万が一に夢精したら後の祭りだから、相当に溜まっている上に寝不足つづき。

そこまで思いつめるほどに、キャラに根づいた恋心はどうしようもなく、おそらく一生、消えることはない。

顎はもう固定されていないのに、見上げたまま、あられもない顔をさらしつつ「ひいいんぐあつ、ああつ、しよこおおだめええ」と止まった太ももに精液をなすりつけるように腰をふり、触ってほしく

てたまらない乳首を固い胸にすりすり。

「ジルくんは売女のように股が緩くて、はしたないなあ？

ちちゃんと夜のお勤めはできているの？ エミリーを悦ばせてあげられている？」

「昨夜はどうだったの？」とくすぐすと囁かれて「やだあああしょんな、ことお、聞かないでえ．．．」お義父様のお、ばかあああ」とすこしもせず再三射精。

まだまだ息子は淫刺としているとはいえ、呼吸がままならず義父にしがみつくと、なぜか太い腕をほどかれて、ずるずると床にへたりこむ。床に倒れたらカーテンから足がはみでるに、義父の腰につかまって膝立ち、はからずも張りつめて濡れたズボンに頬擦り。

「はあああああ．．．」と猫のように顔をすり寄せてから顔を

あげれば、それまでは余裕たっぷりに笑っていたのが頬をひきつらせ  
て、やや辛そうに。

その表情に胸がきゅんとしたのと「ジルくんは妻を抱いたあと、わた  
しの欲しくてたまらなくなるんだよね？」と嘲笑混じりの囁きに「あ  
ああ・・・」耐えられず、ズボンと下着をずらして剥きだしになっ  
たのを舐めだす。

